平成23年度
第4回信州大学FDショートセミナー
長期休業中の学習について考える

導入・概説

《課題》について

全学教育機構准教授 松岡幸司
高等教育研究センター（兼任・FD担当）
maulwurf@shinshu-u.ac.jp

1. 《課題》とは？： Semester 期間中

学生にとって（宿題）

- ※ 前回授業の復習機能
 - 自己確認：理解度チェック
 - 既習内容の定着
 - ※ 次回授業の予習機能
 - 学習の準備：学習に対する姿勢
 - 未習内容の問題点を把握
 - ※ つまりは「自習」のための課題
- ↓
なぜ？

1. 《課題》とは？： Semester 期間中

- ※ 第二十一条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。
- 2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、…（大学設置基準より）
- 例：半期 1 単位の授業では：
 - 授業時間1.5時間×15回＝22.5時間
 - (45-22.5) ÷ 15回＝1.5時間
- 1 回の授業あたり、学生は1.5時間の自習をしなければ 1 単位にならない！

2. 《課題》とは？： Semester 期間中

では、教員にとっては？

- ※ 毎回の課題（＝宿題）の意味
 - 学生の自主学習を促す
 - 学習事項の定着をはかる
 - 次回の授業につなげる
- ↓
- ※ シラバス上の毎回の授業の連続性の保証
 - 授業の到達目標に達するための手段
 - 教育の質保証に関わる

2. 《課題》とは？： 長期休業期間中

- ※ 前 Semester の復習機能
 - 既習事項の振り返り＝定着
- ※ 次 Semester の予習機能
 - 未習事項の準備＝応用・発展
- ※ つまりは「自習」のための課題
- それらに加えて
- ※ カリキュラム上の各ユニットの連続性の保証
 - 大学教育の到達目標に達するための手段
 - カリキュラムマップの連続性に必要不可欠

3. 《課題》にまつわる問題点

- ※ 必要性の認識
 - 学生にとって/教員にとっても
- ※ モティベーション
 - 取り組む態度/プログラムの作成
- 特に教員にとって
- ※ 出題とフォロー
 - Semester 期間中：シラバス上の流れ
 - 長期休業期間中：カリキュラム上の流れ
 - Semester 制の導入により困難化

4. 長期休業期間中における学習の必要性

今まで述べてきたように：

※ 学習の継続性という観点からの必要性

- 学生にとって ← 教員からの提示

※ カリキュラムの連続性という観点からの必要性

- 教員にとって ⇒ 学生への意識付け

⇒ 本来どの授業もカリキュラムマップでは、
前後のセメスターの授業との連続性がある。

⇒ この点（前後との接続性）を意識したシラバスとプログラムの作成が必要！